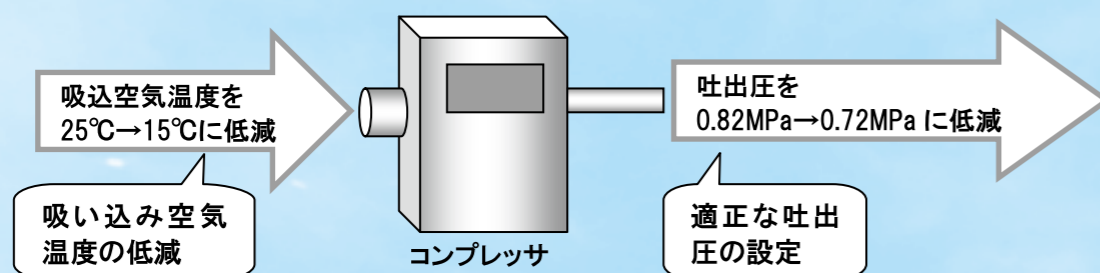


コンプレッサの取組

コンプレッサの吐出圧を見直しましょう

使用する機器の必要とする圧に対して、圧力設定が高すぎるとエネルギーのロスにつながります。吐出圧を0.1MPa下げること、約10%の省エネ効果になります。また、コンプレッサ吸込空気温度を約10℃下げること、約3%の省エネになります。



- ①コンプレッサの使用状況の確認をしましょう。
コンプレッサの使用状況を確認し、圧力の低減できる機器がないか、吸込空気温度が外気温より高くなっていないか確認をしましょう。
- ②圧力の低減や温度の低減を行きましょう。
圧力の低減は操業に影響が無いか確認しながら徐々に実施しましょう。外気温より吸込空気温度が高い場合は、温度を高くしている理由を排除できるか(例えばボイラ室が隣にありドアから熱が入る場合、常時ドアを閉めることで温度を下げられないか)、外気を導入できないかを検討してみましょう。

照明の取組

不必要な照明の消灯

人がいない部屋、必要な箇所以外で不要な照明を行っている場合があります。部屋を出る際には必ず消灯をするようにしましょう。また、人が作業している場所以外の照明も消すように心がけましょう。

省エネ型照明の採用を検討しましょう

従来型の蛍光管を省エネ型の蛍光管に、白熱灯を電球型蛍光灯やLED電球に変更することで省エネになります。省エネ型のランプが利用可能な場所は、導入を進めましょう。
また、水銀灯の屋外照明のランプをメタルハライドランプ、LEDランプなどの高効率のランプへの変更を検討しましょう

空調の取組

空調温度は適正温度で管理しましょう

冷房の設定温度を1度上げることで、電力消費を約10~15%抑えることができます。夏は28℃、冬は20℃を目安に室温の温度設定を行きましょう。空調のスイッチにルールを表示すると、従業員は取組やすくなります。
また、クールビズやウォームビズを実施し、従業員の軽装、厚着を進めましょう。

空調時にはブラインドを上手に利用しましょう

窓から日光が入る状態で空調機の冷房運転はエネルギーのロスになります。冷房時にはブラインドを上手に利用しましょう。遮熱フィルムの施工も大きな省エネにつながります。

空調機のフィルターの定期的な清掃をしましょう

空調機はフィルターの清掃をしないまま運転を続けると消費電力が増加します。空調機のフィルターを定期的に清掃することで、清掃しない場合と比べ10~20%の省エネの効果があります。説明書を見て、フィルターの清掃を行きましょう。

車両の取組

公共交通機関を利用しましょう

駅やバス停に近い事業所では、電車・バスなど公共交通機関を利用しましょう。省エネだけでなく、コストの面でも公共交通機関を利用した方がよい場合が多くあります。
社用車は使用抑制し、効率的利用に努めましょう。

エコドライブの取組をしましょう

運転方法による誰でも実行できる手段としてエコドライブがあります。今まで取組をしていない場合、エコドライブの実施により約10%の省エネ効果が見込めます。エコドライブの取組としてエコドライブ普及連絡会制定の「エコドライブ10」があります。詳細は <http://www.ecodrive.jp/> を見てみましょう。